

**会 員 広 場**

**私とモチーフ** 千葉支部 水野 美預子

私の主なモチーフは、布と果物です。果物は、できるだけ新鮮な葉付きのものが最高です。布は、果物が映えるよう、レースだったり、キルトだったり、模様のおもしろいものを選びます。

果物をモチーフに選ぶのは、多分アメリカの学校で五年間殆んど、どのセッティングにも果物があつたからだと思えます。果物を描いているとても気持ちが悪く落ち着くのです。布と果物をモチーフに決めたのは、一五年以上前になります。日本に帰国してからは布と果物だけのセッティングが増え、他には余り加えないようになりました。

やはり、日本ではすつきりとした方が良い気がしました。ただ、一〇〇号のように大きいと布と果物だけではインパクトが足りません。ガラスの器も私のモチーフなので、大きい作品の時には使います。果物と布がお互いに引き立てることが出来ればいい作品になります。描く時はできるだけ感謝の気持ちをもって描くように心がけています。

私の夫は、時には辛辣なことを言ったり、無茶な評価をしたりしますが、できるだけ素直に聞くことにしています。何せ一番の応援者ですから。これからも、より良い作品を描き続けます。

**京都支部だより**

支部員 神内 巍

**京都支部展開催**

第二七回京都支部展は、一月九日(金)から一四日(水)までの六日間、秋深まる西宮、阪急夙川駅近くの、ギャラリー「雛」にて開催された。「雛」での開催は、平成二八年一二月の第二四回支部展以来、二年ぶりの開催である。開会前日の八日は作品搬入と展示の日だ。

展示作業を終えた後、パーティーが開かれた。全員がお菓子をつまみながら、久しぶりの顔合わせに日頃の活動状況や近況報告、そしてお互いの作品講評など、和気藹々のオープニングパーティーとなった。

展示の内容は、出品者一二名による絵画部門、一〇号前後の小品で油彩や水彩三三作品、陶・工芸部門は出品者五名による二〇数点の陶芸や工芸作品、合わせて出品者一六名による六〇数点の展示となった。

また今回は出品者の希望により売価を表示しての展示をすることとなり、意欲的で内容の充実した、支部展となった。また六日間の会期中には、約二五〇名の来場者を迎え、盛会のうち、

無事終えることが出来た。今回はギャラリーの事情もあり、二年ぶりの小品展であったが、出来れば毎年開催して、今後とも元気で、頑張っていこうと話し合いながら、閉会・解散となった。

尚、三月二〇日から五日間の予定で、重要文化財指定である京都文化博物館にて、新日美京都巡回展が予定されている。本部役員の先生方をはじめ、各方面からのご入浴を、京都支部員一同、心よりお待ちしております。



京都支部展会場  
ギャラリー「雛」

**さきたま支部だより**

支部長 住佐 美紗子

**さきたま支部展に**

おいで下さい

今年のさきたま支部展は三月一九日から四日間となりました。京都巡回展と重なってしまったので、会員間の交流が少なく感じているのに京都巡回展と日程がまったく同じになるなんて、びっくり

でした。さきたまは農耕民族なので春先の忙しくなる時期をはずして展覧会を開催してきました。それが京都巡回展と重なってしまうなんて!

さきたま支部は羽生市、行田市など県の北部と大宮、浦和などさいたま市と離れた広い地域にまたがっていて、はじめの頃から行き来が大変でした。はじめの一〇数年は県北という羽生、行田などで開催されていましたが一〇年あまりのブランクを経て、大宮で再開されるようになりました。

年に一回、作品を持ちより、油彩、水彩、日本画、押し花絵など種類が多く、会場の氷川の杜文化館という和風の氷川神社参道にある風情のあるところで開催できることが人気になり地元ファンもできました。「今年はいつやるの」という声もきかれるようになりました。大宮公園に続く一帯は梅や桜の名所でもあります。早春の一日をさきたま支部展にお出かけになつて下さい。



さきたま支部展会場  
氷川の杜文化館